

第 11 回 八戸市総合計画策定委員会 議事録

日 時：平成 27 年 8 月 7 日（金） 14：00～15：00

場 所：八戸グランドホテル 2 階 グランドホール

出席委員：25 名

藤田委員長、大谷副委員長、岡田委員、青野委員、武輪委員、河村委員、澤藤委員、大黒委員、小野委員、類家委員、川本委員、町田委員、田頭委員、中川原委員、平山委員、西川委員、吉田委員、橋本委員、越後委員、平間委員、川村委員、高木委員、米内正明委員、米内安芸委員、小向委員

（欠席 7 名：馬場委員、工藤委員、門前委員、八木委員、松田委員、浮木委員、古戸委員）

事務局：

大坪総合政策部長、中村総合政策部次長兼政策推進課長、久保政策推進グループリーダー、谷崎主幹、中野主査、佐々木主事

（株）ケー・シー・エス 東北支社 石田、岡田、長瀬

次 第：

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 審議案件
審議 1. 第 6 次八戸市総合計画（案）について
- 4 その他
- 5 閉会

次第 開会

司会：本日は、お忙しいところ御出席いただき、ありがとうございます。只今より、第 11 回八戸市総合計画策定委員会を開催いたします。本日の会議は、お手元の次第に沿って進めさせていただきます。尚、本日は、馬場委員、工藤委員、門前委員、八木委員、松田委員、浮木委員、古戸委員の 7 名が都合により御欠席となっておりますことを御報告いたします。

それでは、資料を御確認いただきまして、本日の会議に入りたいと存じます。資料としては、本日お配りしております席図、次第、総合計画（案）、会議資料の 1 と 2、付属資料の主要事業一覧、前回の策定委員会と専門部会の議事概要でございます。過不足等ございましたら、事務局までお申し付けください。よろしいでしょうか。

次第 委員長あいさつ

司会：それでは、議事に入る前に委員長から御あいさつをお願いいたします。

委員長：本日は、大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。さて、当委員会では、これまで策定委員会を 10 回、専門委員会を 5 回にわたり開催したほか、公開討論会や 2 度のパブリックコメントを実施するなど、委員各位の御協力のもとに計画の策定

を進め、いよいよ本日が最後の策定委員会の開催となります。今回は、前回の会議において計画案に対しての意見集約を行い、そこで各委員から寄せられた意見を基に計画案を変更しております。そのため、本日の審議は、策定委員会において、専門部会での意見も含めた前回からの変更内容を中心に最終的な確認を行い、計画案を固めていきたいと思っております。委員各位におかれましては、このような事情を御賢察いただき、策定委員会の議事の進行に御協力をよろしくお願いいたします。

司会 : ありがとうございます。引き続き、委員長に議事の進行をよろしくお願いいたします。

次第 審議 1. 第 6 次八戸市総合計画（案）について

委員長 : それではしばらくの間、議長を務めさせていただきます。御協力よろしくお願いいたします。それでは議事に入ります。「審議 1. 第 6 次八戸市総合計画（案）について」でございます。冒頭のあいさつでも御説明したとおり、今回は前回からの変更内容等を確認し、市長に提出する計画案を固めていきたいと思っております。なお、前回の専門部会において意見集約された第 5 章戦略プロジェクトに対する変更内容についても御確認いただきたいと思っております。それでは事務局から説明をお願いします。

〔資料に基づき事務局説明〕

委員長 : それでは、只今の説明に対して、御質問・御意見等ございませんでしょうか。今回は計画案を決定する最後の会議となりますので、提案等ございましたら、具体的な提案をよろしくお願いいたします。

A委員 : 「安心・安全」という言葉の使い方ですが、本来、安全というのは科学的根拠がある部分だと思います。そのような根拠のある安全を前提にして精神的な安心が生まれてきますので、安全が本来であれば前にくるべきではないかと思っております。食品等でも「安全・安心」という様に言いますし、私も安全なものが安心なのではないかという言い方をしています。科学的根拠がありますので、安心が先にくるのはどうかと思っております。

委員長 : B委員、何かコメントはありますか。

B委員 : ごく一般的に「安心・安全」と使われていますので、市民の皆様にも馴染みがあるのではないのでしょうか。必ずしも安心と安全は共通とは思いませんが、一般的に言うところの表記の方がよろしい気がします。

委員長 : いかがでしょうか。よろしいでしょうか。お話しされている事は分からなくもありませんが、今の場合は総合計画として一般的な話ですので、「安心・安全」ということでよろしいかと思っております。他に何かございますか。

C委員 : 会議資料 2 の 11 ページの NO. 29 の事業名について、「水産物流加工振興事業」とありますが、「水産物流通加工振興事業」が今まで使っていた名称ではないかと思っておりました。事業名に間違いがあるのではと思い確認しましたが、そうでなければよろしいと思っております。

事務局 : 資料の表記ミスで、「水産物流通加工振興事業」が正しい事業名ですので、会議資料の訂正をお願いいたします。

委員長 : こちらは訂正でお願いいたします。他に何かございませんか。それでは特にないようですので、先程事務局から説明があった通りの変更内容といたします。また、只今の審議結果を

踏まえて、当策定委員会における計画案として、市長へ提出をさせていただきたいと思えます。こちらは8月12日に行うことになっております。

次第 その他

委員長 : 本日予定していた案件は以上ですが、皆様方から何かございませんでしょうか。

D委員 : 当策定委員会が進行中に政府の方から、都心部の高齢者を地方に移住させる案が出されましたが、それに対し八戸市はどのような考えをお持ちか、お聞かせいただきたいと思えます。どなたかお答えできる方がおられましたらお願いします。

事務局 : 只今御発言のありました構想でございますが、CCRC（継続介護付きリタイアメント・コミュニティ）という構想が出されております。この構想につきましては、現在国におきまして、まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づく地方創生の一つの政策として検討が加えられております。それに向けた来年度の予算も、今政府で検討されております。御質問についてですが、市議会6月定例会におきましても、議員から御質問がありました。国から今後どのような政策メニューが出てくるかによって様々な動きが出てくるかもしれませんが、現時点で、市長が考え方を議会へ答弁しております。内容といたしましては、高齢者だけを限定的に移住促進するというのではなく、若年層の雇用の受け皿となるような企業の誘致施策の投入が重要というものです。また全国各地でCCRCという施策に検討が加えられまして、知事会やそれぞれの都道府県自治体レベルで物議を醸しております。一概に評価しにくい所はありますが、一つ懸念される所といたしますと、医療費や介護費用といった自治体間の調整です。介護保険につきましては市町村運営になっております。そういった所を十分に見極めながらこれから行っていかなければならないという段階でございます。

D委員 : 先日、石破地方創生大臣の補佐官をしている方が八戸においでになりまして、お会いする機会がありましたが、その時にもその事をお伺いしました。高齢者と言っているのではなく、東京で色々な経験を積んだ50代の人達を中心にとというようなお話でございました。それがどの程度まで生かされるのか分かりませんが、50代の方がこちらに来て頑張り、その10年後はどうなるのか、更にその後また50代になった都心部にいる方が地方に分散されていくと地方はどうなるのだろうかというような事を考えると、あまり地方にとっては明るい将来像ではないなという感じがいたします。私は常々、もっと30代40代が輝けるまちにならないのかという事を申し上げております。先日、副委員長が50代は駄目ですかとおっしゃられました。もちろん50代、60代、お年寄りが元気でいらっしゃるのは結構なのですが、30代、40代あるいはこれから子供をつくり家庭をつくる人達がこのまちで何かしてやろうと、そういう風に思えるまちにならないのかというのが私のお話ししている趣旨でございます。もちろん50代の方がこれから子供をつくり一生懸命やっただいて結構でございます。大いにやっていただきたいと思えます。趣旨がそういう事でございまして、その為には比較的年齢を召した方には若い人に一步譲っても良いのではないのかという事をお話ししているわけでございます。是非若い人たちが夢を描けるまち八戸ということを考えていただきたい。国の今のような案も見せかけで、地方へ補助金を出します、企業誘致を斡旋しますという事がついてくるのだろうかと思えますが、それで10年後、20年後どうなるかという事を真剣にお考えいただき、対応していただきたいと思えます。あくまでも私は子育て世代がこのまちで何か夢を叶えている、そんなまちにして欲しいという事でよろしく申し上げます。

委員長 : ありがとうございます。他に何かございませんでしょうか。

E委員 : これからこの第6次八戸市総合計画が採択され、市民の皆様にお伝えをする時に、現段階で八戸市としてどのような形でこの総合計画を市民に周知する段取りを組んでいらっしゃるのかをまずお聞かせ願いたいと思います。

委員長 : 市民に公開するその手法ですね。

事務局 : こういった計画を作りますと、広報はちのへで周知する事はもちろんでございますが、ホームページも兼ね合わせまして、広く市民の皆様方と共有を図っていかねなければならないと思っております。当面はそういった対応で進めますが、総合計画につきましては毎年度進行管理をしていかねなければならないと思っております。この計画書の中にもありますが、市民で構成する委員会を設けまして、第5次総合計画でも行っていただいているような形で、毎年度進行管理をして予算と施策に反映させていくという流れの中で、市民の皆様方にその場面でも広報を始めとする各種媒体でお知らせを行い、市政の状況の共有を図っていきたいと思っております。

E委員 : ありがとうございます。それではこの分厚い総合計画を八戸市民の何名の方に最初から最後まで読んでいただくことを想定なさっているか、考えをお知らせください。

事務局 : 何名とお聞きされるとなかなか答えられない所ではありますが、先程広報と申し上げましたが、その他にも当然市の関係機関、公民館といった所にも備えつけて閲覧出来るような環境は整えて行きたいと思っております。

E委員 : 無理な質問をして恐縮であります。言いたい事はここからであります。例えば私達もそうではありますが、厚い議案書を作成して組織に配り皆さんが見ているかとなると、残念ながらパラパラとめくりタイトルだけ見る、感心のある所だけを見ている。そこをどうしたら良いか、我々も情報の発信で常に悩んでいます。一つ、伝える媒体として漫画という手段があります。例えばこの八戸市総合計画を漫画にする。小冊子で良いかと思えます。八戸市内には漫画同好会の皆さんや、漫画のプロを目指す方々も結構いらっしゃいますので、八戸市総合計画を漫画にするコンテストを開催する、または代表的な方に依頼してあまりお金をかけないようにする。その方々は元々漫画が好きで描いている方々であります。今八戸市はこういった方向を目指しているという事を漫画で作ると、若い方々にもめくっていただける可能性は出てくるのではないかと考えました。大変恐縮ですが、提案ということで発言いたしました。以上です。

委員長 : ありがとうございます。広報の手法と併せて考えていただきたいと思えます。

F委員 : 今の件に関連してですが、漫画も非常に面白いと思えますが、もっとメディアを活用してほしいと思えます。市ではどちらかというところ広報へ概略等を説明されて終わり、あとは図書館に置いてあるなど、それでは、かなり関心がないと見ないわけです。そうではなく、例えば地元紙等で、総合計画について広報より身近に関心を持てるよう座談会のような場を設けて告知してほしいと思えます。同じように、町内会へ入らなければならない事は分かっているかと思えますが、町内会の必要性や自分達がどう関わっていけば良いかについて、地元紙やそういった場で色々な議論をさせ、関心を持ってもらう場をたくさん作っていかねれば、なかなか関心は向いていきません。自分の好きな問題がクローズアップされて関心を持っていけるようなあり方を探っていくべきではないかと思えます。

委員長 : 今日は県内2社のマスコミの方がいらしております。記事にもしていただき、最終的には

ホームページにも掲載され、市民の皆様から興味を持ってアクセスしてもらえるような形が良いかと思います。いずれにしても、その件も合わせて工夫をよろしくお願いいたします。

最後に、これまで部会長の皆さんや副委員長には様々御苦勞いただきました。本当は一人ずつ皆さんにお話しただきたかったのですが、今日は代表して部会長の皆さんに一人ずつ御あいさついただきたいと思います。それでは最初にG部会長からお願いいたします。

G委員 : 5つの戦略の中で戦略プロジェクトがあり、経験の少ない不得意分野の人づくり戦略を担当させていただきました。副部会長をはじめ、女性委員が比較的多い部会で、積極的な意見、あるいは私の知らない部分についても様々意見を出していただきながら取りまとめをさせていただきました。個人的には非常に勉強になりました。人づくりが一番に挙げられている理由として、国全体も少子高齢化という大きな課題を抱えていることであると考えました。人づくりでは、子育て、教育、女性活躍の3つの切り口で戦略プロジェクトを検討してきました。いずれも、この戦略を立てていかなければ市の将来も危ういのではないかと改めて認識をさせていただきました。特に、将来都市像として掲げた「ひと・産業・文化が輝く北の創造都市」の実現に向けて各戦略プロジェクトを検討する中で、人が将来本当に輝いていけるのかを自問自答させていただきました。なかなか時間が取れない中、前回直前で見直しをさせていただき、意見を2、3申し上げさせていただきました。本当に人が輝いてほしいと感じております。特に策定にあたり将来的に大事なものは、D委員から発言がありましたように、若い人達にどう理解していただくのか、意見を出していただくかです。こちらについてはE委員、F委員から発言がありました通りだと思います。どう広めていくかは重要で、漫画も一つの手段ですし、メディアの力も借りたいと思うのですが、我々に出来る部分は教育の分野であろうと思います。小中学校、将来の進路を決める高校でも、総合学習の中で漫画等のアイデアも使い計画に関心を持っていただく必要があるのではないかと。特に失われた20年の中で考えてみると、40代の方は社会に出てから右肩上がりの状況を経験していません。生まれて今20歳になった方々も、未来が明るい実感を持っていない世代だと思います。我々が「ひと・産業・文化が輝く」と謳っている以上、輝かせるための手段をしっかりと考えていかなければならないと思いました。最後に委員の皆様方に感謝を申し上げて終わりたいと思います。ありがとうございました。

委員長 : それでは次にH部会長からお願いします。

H委員 : 生業づくりの戦略として六次産業化、企業活性化、雇用・起業促進の3つのプロジェクトがございます。お互いに関係して一つだけが独立してあるわけではありません。色々な分野のスペシャリストである委員の皆様がいらっしゃり、大変示唆に富んだ御意見が出ました。市の方へお願いし、意見を反映させていただいたと思います。ただし、本当に実行してこの通りになるかというのは、予算の関係等大変難しい事もあります。八戸市は様々な意味で青森県を代表している都市です。新しい第6次総合計画が青森県全体、国の一つの地域モデルになれば良いと思います。是非、予算をたくさん獲得して実施していただけるようお願いしたいと思います。委員の皆様には示唆に富む御意見をいただきましてありがとうございました。

委員長 : それではB部会長からお願いします。

B委員 : 初めて大きい会議に参加させていただき、色々な面で勉強になりました。震災以降、市の主導でハード・ソフト面から復興が進み、救急医療の先進市としても注目を浴びていること

から、救急医療が随分抛り所になっているのではないかと思います。この部会に参加させていただきました。委員の皆さんも同じかと思うのですが、安心づくり部会として命の尊さを意識し、生涯安心して暮らせるまちづくりが八戸においては必要であると思ひ、部会を進めて参りました。当初、都市防災プロジェクトという素案がありましたが、市民の方に少しでも防災意識を持ってもらえるよう、プロジェクト名を地域防災プロジェクトにいたしました。防災リテラシー、ヘルスリテラシーという言葉もありますが、この様々な総合計画の事業を実施することによって、今以上に市民の皆さんの意識が更に向上し、市という大きなコミュニティの中で皆さんが楽しく希望を持って生きられるまちになると良いと思ひました。ここからのポイントは、いかに市民を巻き込んでいくか、能動的に皆さんに八戸の行政に関わってもらおうかだと思います。先程E委員がおっしゃったように、どう伝達するかは大事で、それぞれの年代で情報の伝達媒体が違いますので、上手く利用し中学生位から高齢の方まで幅広く伝えていただきたいです。全部知る必要はなく、最低限必要な情報を確保する意識が生まれると、自分から進んで情報を集めるという行動にでてくれるのではないかと思います。与えるのではなく、自分から取りに行くことが現代社会では必要とされておりますので、出来るようになる良いと思ひました。昨年度から2年間、皆さんどうもお疲れ様でした。委員の皆様方に感謝いたします。

委員長：それでは副委員長お願いします。

副委員長：まずは委員の皆様、大変長時間ありがとうございました。また、委員長大変御苦勞様ありがとうございました。副委員長という調整側の立場で、皆さんのように自分の意見を言えないこともありました。私の本来の専門はイノベーションやアントレプレナーシップといった、どう差別化するかや、尖った戦略を立てることですが、全く逆の立場を務めることとなりました。専門部会は魅力づくりという難しいテーマで、色々な角度から魅力というものを考えさせられました。計画が終わりこれからの実行部分では、議論された或いは事業に応じたものを全て実行するのではなく、選択と集中を意識し、重点的に予算を付けることを行政側へお願いしたいと思います。こういった計画は総論は良いのですが、予算がつき事業となると小ぶりになり、小さい予算で全てを実施するパターンが多い印象を持っています。掲げた議論の本質から離れ、効果が薄い事業になっているケースも多いと思ひます。執行部分ではメリハリをつけた事業計画の展開をお願いしたいと思っております。ありがとうございました。

委員長：ありがとうございました。それでは私から最後に一言皆さんにお礼を申し上げたいと思ひます。昨年7月にこの委員会がスタートし、今日で11回目となります。専門部会は1月からスタートし、5回行っております。全部出席された方は16回会議に出席されていることとなります。私は司会進行しながら、皆様方には大変失礼な事もお話ししたかと思うのですが、どうぞお許しいただきたいと思ひます。委員の皆様方の御協力により、より一層尖った特徴のある計画が出来てきたと思っております。最終的には、この計画をベースに事業へ落としこみ実施します。最初のページにもある通り進行管理を行うことになっており、別の組織で行うと思ひますが、計画に沿った事業を推進していただきたいと思っております。今日まで委員の皆様方には多大な御協力・御支援をいただきましてありがとうございました。市の大坪部長、中村次長、そして政策推進課の皆様、あまり表には出ませんでした。コンサルタントの皆様も本当によくやってくれました。委員長として大変感謝しております。本当に長い間ありがとうございました。また別の機会にお会いできたらと思っております。あり

がございました。

それでは進行を事務局に戻します。

司会：皆様には昨年度から2年にわたり御審議いただき、大変ありがとうございました。今後のスケジュールでございますが、第6次八戸市総合計画案は8月12日（水）に、委員長ならびに副委員長から市長へ提出いただきます。また、市として9月の市議会定例会へ議案を提出する予定となっております。なお総合計画の冊子につきましては、レイアウト等に対する御意見も踏まえ今後編集作業を行います。改めて皆様に製本したものをお配りしたいと考えておりますのでよろしく願いいたします。それでは最後となりますが、事務局を代表いたしまして大坪総合政策部長から一言お礼の御あいさつを申し上げます。

大坪部長：市を代表しまして、一言委員の皆様方へ御礼を申し上げたいと思います。先程、部会長の皆様方、正副委員長のお話しにもございましたように、昨年の7月から委員会11回、専門部会5回と大変熱心に多大な時間を御議論いただきまして誠にありがとうございます。総合計画は幅広さと奥深さの両面を兼ね揃えていると思っております。委員会での審議はもちろんでございますが、皆様方には非常に厚い資料を御自宅でも様々熱心に御覧いただき委員会へ参画していただいたものと考えております。本当にありがとうございました。先程申し上げた通り、来週市長へ正副委員長から計画案を提出いただきます。市といたしましては、9月の議会に議案として提出し、議決をいただきました後、正式に計画として成立していくということになります。そして来年28年度からの5か年、大事なはこの計画に基づき計画を実行する段階でございます。計画段階から実行段階に事業を毎年精査し、皆様方からも引き続き進行管理へ様々な意見をいただく場面もあるかと思っておりますので、御意見を踏まえながらより良い八戸を創りあげるよう頑張ってお参りたいと思っております。引き続きの御支援と御協力をお願い申し上げます。先程高齢者の移住の話もありましたが、これから別の会議にて、国が全力をあげて進めております「まち・ひと・しごと創生懇談会」を開催いたします。地方創生の素案を昨日議会へ公表いたしまして、これから作りあげていく所でございます。総合計画と分野的には非常に重なり、同じ方向を向いている戦略づくりとなります。10月頃を目処に作りあげて行きたいと思っております。ここまで御議論・御審議いただいた総合計画の委員の皆様方には、素案、原案とそれぞれの段階でまた御意見をいただきたいと思っておりますので、合わせてお願い申し上げます。最後の御礼の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。

司会：それでは最後に事務局から一点事務連絡をさせていただきます。皆様のお手元に本日資料として「中核市市民シンポジウム」をお配りさせていただいております。8月22日（土）、八戸グランドホテルグランドホールにおいてシンポジウムを開催したいと考えておりますので、是非皆様お誘いあわせの上御参加いただければと思います。よろしく願いいたします。

それでは以上をもちまして本日の会議を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。

以上